



## 洋学校教師館(ジェーンズ邸)

● 昭和四十六年四月二十一日  
県指定重要文化財(建造物)

明治四年(一八七二)熊本藩は古城(現第一高校)に洋学校を設立し、教師としてアメリカの退役将校ジェーンズを招いた。ジェーンズのために建てられたのがジェーンズ邸(洋学校教師館)である。らせん階段をもった総二階のコロニア風木造建築で、長崎のグラバー邸などと同じ系統である。コの字型のベランダの天井は菱組みで、柱頭にはブドウの図柄がある。

明治九年洋学校の閉鎖によって一時、県の官舎となったが、明治十年、西南戦争のとき、征討総督有栖川宮熾仁親王の宿舎にあてられた。このとき、佐野常民らの博愛社(後の日本赤十字)が創設され、日赤の記念建造物となった。

明治二十年、県庁の移転に伴い南千反畑に、その後、水道町に移され日赤支部となった。

昭和四十五年、日赤の改築移転に伴って熊本市が譲り受け、現在地(水前寺公園二二)に移築し一般公開している。

## 菊鹿町の伝説

# 相良

あいら

木庭春生

相良観音



日本唯一の珍種「アイラトピカズラ」

菊鹿町内田へ行くのには相良行ききのバスに乗らなければならない。当地の人はアイラと呼ぶが、初めて訪ねる人に「サガラ行きは」と問われる事が多く、当地の人は戸惑うことがある。相良行きは、相良村は通らないが、相良バス停から一キロ程上ると昔から安産祈願で有名な相良観音がある。昔は吾平と書いてアイラと読んでいたが、鎌倉時代初期球磨の相良(さがら)頼景の二男で長頼の弟相良宗頼が地頭として遠江より内田に来り、戦国時代まで当地方を領し内田氏を称した。内田相良氏と言う。その過程で吾平を相良と書き替えた

様である。観音さんは吾平(ごへい)山相良(アイラ)寺で山号も寺号もアイラと読める。寺の裏の吾平山の中腹に伝教大師創建の相良寺があった。源平合戦の壇の浦で敗れた平家の残党がこの寺及び山麓の九十九坊に籠(こも)っていた。菊池五代隆直の兵であったろう。そこへ源氏方の豊後竹田の将緒方三郎という者が突然襲い寺坊を悉(ことごとく)焼打して、走り落の坂を引き取る時、観音は火をさけて蔓(かずら)に変身して飛び上り、緒方三郎の乗馬の足にからみつき落馬したところを残兵が討ち取った。再建された観音さんは右手に、そのがん首の髪をつかんでぶらさげておられる。ところが緒方三郎は無事竹田に帰り、追われる源義経を九州に迎えるべく不落の堅城としたのが今の竹田城である。討ち取られた将は誰であったろうか。飛んで来た観音様の蔓が根づいたのが「アイラトピカズラ」であると言う。楊子江上流に同種があるそうだが、日本唯一珍種であるの

村民の尊崇を集めるミサザキさん



で、特別天然記念物に指定されている。以前は十年位に一度しか開花しないので、開花は国に変事ありとして恐れられていた。今は毎年五月中旬に紫木蓮様の花が房状に咲く。遣唐使僧が種を持ち帰ったものか。観音の西に吾平山陵がある。ミサザキさんと村民の尊崇する小山である。日本書紀に「神武天皇の父ウカヤフエアエズの尊は、筑紫の吾平に葬(ほうむ)る」とある。実在の人とも思えないが、やんごとなき人の塚であろう。邪馬台国の卑弥呼の塚ではないかと言われる。発掘してみたいが尊崇する村民が許さないだろう。